

創宇社第8回建築制作展覧会の作品・言説にみる社会意識の所在 戦前期の日本におけるモダニズム建築の社会思想に関する研究

The location of social consciousness in the works and discourses of the 8th exhibition of Sousha kenchikukai
A study on the social thought of modernist architecture in prewar Japan

○前田閑彩¹, 田所辰之助²

*Shizusa Maeda¹, Shinnosuke Tadokoro²

Abstract: The social philosophy that aims to improve the human living environment, which is the foundation of Western European modern architecture, has been linked to the social consciousness among Japanese architects since the move to Japan in the prewar period. Has it been built? Through exhibitions and lecture activities as Soviet Architectural Association's athletic body, trying to build an ideal way of architecture based on social consciousness in the Japanese architectural world and clarifying the location of that consciousness. The purpose of this research was to focus on the works exhibited at the 8th exhibition of Sousha kenchikukai.

Analyzes of works and discourses in the exhibition will be conducted for architectural magazines published at that time.

1. 研究目的

西欧モダニズム建築の根底にある、人間生活環境の改善を意図した社会思想が、戦前期の日本に移入して以降、日本人建築家の中でどのような社会意識と結びつき、日本のモダニズム建築を構築してきたのか。創宇社建築会の運動体としての展覧会、講演会活動を通して、日本の建築界でその社会意識を基調とした建築のあり方を構築しようとした試みとその意識の所在を明らかにすることを目的とし、本研究は、創宇社第8回展覧会の出品作品に着目し、研究したものである。

2. 研究手法

作品、言説の分析を、当時発行していた建築雑誌を対象として行う。建築関係雑誌年表^[1]の中の創宇社の活動期(1923-1930)に該当するもの、また『建築画報』『建築新潮』も対象とする。雑誌に掲載された創宇社の記事を全て選択し、展覧会ごとに表にまとめる。また、雑誌記事の中に紹介されている作品を、図面、写真、模型、解説の4項目に該当するものを表にまとめ、作成した表、対象の雑誌記事から分析を行う。

3. 第8回展覧会の特徴と作品

第8回展覧会に寄せられた作品は、20作品でそのうち、住宅、住戸計画を含む提案は、10点、更に病院等の滞在する居室を持つ提案は3点、と半数を超える提案が人間の住生活環境に対する問題意識を建築によって解決しようと試みている。参加した建築家、またこの展覧会を通してこの作品に触れた人々へ社会意識を芽生えさせたと考察できる。

4. 社会意識の所在

「新興建築家の実践とは(合理主義反省要望の続き)」^[2]で、無産階級の労働者の解放まで触れ、新興建築家としての役割を強く示したが、「創宇社のモットー」^[3]では、エセ・マルキシスト的、プロレタリアートの実生活から遊離した超階級理論ではなく、正当なる建築を実践と方法論によって求めていることを示している。作品には、換気や採光、通風といった生活衛生を保ち、建築費や材料、構法に着目した経済性を組み込んだ方法論を研究をもとに示していることがわかった。

5. 結

創宇社は、無産階級の大衆に向けた建築のあり方を模索し、実践に繋げて示そうとしていたと考察でき、作品の実現性をより高め、実践、大衆といったキーワードを中心に、建築を構築し、それを啓蒙していった功績が見られることから、彼らの目指した社会意識の所在は、その設計方法論にあると結論づけられる。

6. 参考文献

[1] 日本科学史学会 編：『日本科学技術史大系〈第17巻〉建築技術』、第一法規出版、p.483、1964。[2] 岡村蚊象：「新興建築家の実践とは(合理主義反省要望の続き)」、国際建築、Vol.6, No.12, pp.2, 1930。[3] 「創宇社のモットー」、建築新潮、Vol.11, No.11, pp.4, 1930。[4] 『建築家 山口文象 人と作品』、相模書房、1982。[5] 伊達美徳：『新編 山口文象 人と作品』、アール・アイ・エー、2003。[6] 本多昭一：『近代日本建築運動史』、ドメス出版、2003。[7] 佐藤美弥：「都市社会における文化活動の研究：両大戦間期の創宇社建築会を中心に」、一橋大学、博士(社会学)、2010。

1：日大理工・院(前)・建築 2：日大理工・教員・建築

Table 1. List of articles about Sousha published in magazines

掲載誌名	雑誌名	出版年	巻数	号数	ページ	著者
現覧会、講演会	雑誌名	出版年	巻数	号数	ページ	1
						2
						3
						4
						5
						6
制作既覧会	雑誌名	出版年	巻数	号数	ページ	1
						2
						3
						4
						5
						6

Table 2. Classification table of the 8th exhibition

活動	建築作品	発表者	図面	写真	掲載	解説	
制作既覧会	制作既覧会	制作既覧会	制作既覧会	92	田中	橋本一希	
				93	田中	橋本一希	
				94	田中	橋本一希	
				95	田中	橋本一希	
				96	田中	橋本一希	
				97	田中	橋本一希	
				98	田中	橋本一希	
				99	田中	橋本一希	
				100	田中	橋本一希	
				101	田中	橋本一希	
				102	田中	橋本一希	
制作既覧会	制作既覧会	制作既覧会	制作既覧会	103	田中	橋本一希	
				104	田中	橋本一希	
				105	田中	橋本一希	
				106	田中	橋本一希	
				107	田中	橋本一希	
				108	田中	橋本一希	
				109	田中	橋本一希	
				110	田中	橋本一希	
				111	田中	橋本一希	
				112	田中	橋本一希	

Table 3. Drawings, model photos and commentary on the 8th exhibition work

創字社	第8回建築制作展覧会	1930	10.1 - 10.7	数寄屋橋朝日新聞社																
作品番号	No.92	No.93	No.94	No.95	No.96	No.97	No.98	No.99	No.100	No.101	No.102	No.103	No.104	No.105	No.106	No.107	No.108	No.109	No.110	
作品名	住宅	不具者診療所	小売商店計画	病院	致善組立家屋	協同組合アパートメント	集合住宅	致善者のアパートメント	サテライトコンプレックス	名古屋市庁舎	名古屋市庁舎	2人寝房集合住宅	小川三三	新築工場	サテライト(化学研究所)	主室	小売店	小学校	託児所	ガソリンスタンド
作者	海老原一郎	古川味雄	廣木竜吉	平松彦彦	致善組立家屋	協同組合アパートメント	集合住宅	致善者のアパートメント	前川國男	前川國男	前川國男	野口肇	小川三三	新築工場	竹村新太郎	谷口吉郎	渡辺雄	梅田隆	山本勝巳	
図面																				
模型																				
写真																				
解説	No.92	No.93	No.94	No.95	No.96	No.97	No.98	No.99	No.100	No.101	No.102	No.103	No.104	No.105	No.106	No.107	No.108	No.109	No.110	